

就任あいさつ

～強いられた農協改革を跳ね返すために～

6月の第33回通常総会・理事会で常務理事に選任されました。前任は、JA長野中央会で営農・農政業務を中心に三十有余年取り組んできましたが、この経験を生かし、機構の設立趣旨である農業・地域開発また人材活用に微力ながらフル稼働してまいりますので、宜しくお願いいたします。

8月28日に改正農協法が成立した。衆参の農林水産委員会で現場の懸念に対し付帯決議を採択したが、その懸念は払拭できていない。「農業所得の増大」など法改正の趣旨と、改正内容が齟齬し、その責任の全てを農協に委ねられた。准組合員の利用規制問題は、5年間その利用状況や自己改革の実施状況を調査した上で結論を得るとし、先送りとなった。本来、農協法は、農協の発展を期すべきものであるが、法律が農協活動を委縮させる状況だ。これを跳ね返す妙案などないが、正組合員であれ准組合員であれ、その数（仲間）を拡大し、多様化した組合員との関係性強化と事業組織活動を通じて信頼を得ていくこと、実態を創ることに尽きる。当機構では、近年、JAの組織事業基盤の維持強化のための支店協同活動の調査研究や農業地域活性化のための6次産業化に関する長年のノウハウ集積とそれを生かしたコンサル事業などに取り組んでいる。また、事業を動かすのは人、その活用を促す人材銀行業務を行っている。これらの事業を通じて、強いられた農協改革を跳ね返すために25会員とともに、JA長野県グループのシンクタンクとして、一步先のJA長野県を構想・挑戦していくしかない。（常務理事 浦野邦衛）

【地域開発部】

研究
報告

中野市におけるきのこ消費量調査

昨年度、北信州親子きのこ学校推進協会と共同で実施したきのこ消費量調査の研究成果を、9月5・6日に行われた日本きのこ学会において発表したもので、概要を報告します。（研究員 坂 知樹）

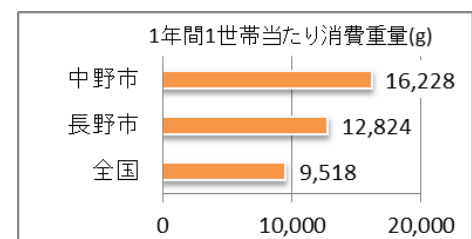
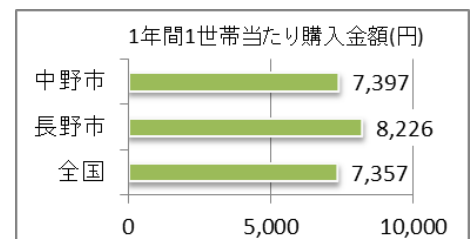
方法 中野市にある11小学校を通じて、小学生・保護者にアンケート調査票を渡し、一定の期間に調達したきのこの品目、購入金額、消費重量、調達方法などを記入してもらいました。

結果① 1年間1世帯当たりの購入金額（右上図）をみると、中野市は7,397円で、全国平均の7,357円とほぼ同じ、長野市の8,226円より約1割低くなっています。しかし、1年間1世帯当たりの消費重量（右下図）をみると、中野市は16,228gで、長野市の12,824gより約1.25倍、全国の9,518gより約1.7倍多く食べていることが分かりました。このように、購入金額に比べて消費重量が多いのは、きのこの調達方法が「もらい物（金額0円で調達）」という回答が全体の17.8%と多かったことが要因と考えられます。

結果② 品目別に中野市ではどのようなきのこが食べられているのかをみると、1年間1世帯当たりの消費重量の上位3位は、えのき茸が8,026g、ぶなしめじが2,774g、エリンギが1,882gとなりました。このように、えのき茸の産地である中野市は、消費量も多いことが明らかとなりました。

なお、報告の詳細はJAグループ長野開発機構のHP（<http://www.janis.or.jp/kenren/ird/index.html>）をご参照ください。

図 中野市と長野市、全国とのきのこ消費量の比較（上図：購入金額、下図：消費重量）



【人材銀行局】

職場
から

地域への貢献度大、生き生き就労



南部LPGセンター 下島寿雄さん



中部LPGセンター 唐木治勇さん

今回は、JA上伊那LPGセンターにて、就労されている下島さんと唐木さんを紹介します。

LPGガスの使用量検針とそれに伴う集金業務がお二人の主な仕事です。地域的な事情もありますが、お二人の強みは、お客様と強固な信頼関係を築いているということです。

唐木さんのモットーは、「こんにちは、ガスの検針です。」と、まずは必ず一声かけてから、検針を行うことです。コンプライアンスを求められる時代ゆえに、一目でJA職員とわかるように帽子、名札を身に付けていきます。また、近年高齢化の著しい地域を担当する下島さんは、「火を使わない」、オール電化の家庭が増え、LPGガスの供給が減少傾向であり、ちょっと苦慮している側面もありますとのこと。

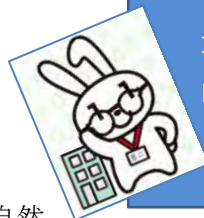
県下の傾向として、今回のLPGの検針作業を始めとし、LPGガスセンターの配送などの求人が増えています。定年後等、お客さんとふれあいながら親しみやすい職場での就労を希望される方、迷わず、人材銀行局へ一報、お待ちしております。

平成27年度派遣等職員研修会の開催について

日時：11月10日（火） 10時30分～

場所：JA長野県ビル 12A会議室

内容：マイナンバーやストレスチェック
制度について研修します



職員
紹介

頑張ってます。派遣職員！

佐藤農場 竹田貴充さん



11年前豊かな自然

の中でわが子を育てようと、都内から軽井沢へIターン。

新鮮な野菜を作ろうと一大決心するものの、当然ながら素人でした。そこで、地元のプロ農家にてすべてを学び体験すべく佐藤農場に就労。現在午前中は、野菜作りに汗を流しています。一方、「一夢庵・いちむあん」という「Bar & Cafe」を夕方から経営し、自家製の新鮮な野菜をお客様にいち早く提供されています。

～編集後記～

「JA長野開発機構だより」の秋季号をお届けいたしました。

皆様からの調査研究に関するお問い合わせや人材銀行への相談をお待ちしております。 (Y)

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA長野県ビル 11階

TEL 026 (236) 3500 (代表) /FAX 026 (236) 3505